

令和5年度第4回盛岡都市圏地域公共交通会議 議事概要

■開催日時：令和6年3月26日（火） 午後1時30分から午後3時00分まで

■場所：盛岡市勤労福祉会館 5階 大会議室

■出席状況：委員30名中 28名出席（うち、代理による出席者4名）

■議事概要

1 開会

2 挨拶

○中村会長（盛岡市副市長）

3 新任委員の紹介

4 議題

(1) 盛岡都市圏地域公共交通計画について（基本方針(案)等）

〔事務局説明〕

資料1について説明。

〔質疑応答〕

○谷本委員

資料1の9ページ、基本理念について「つながる」より「つなげる」という表現の方が能動的な表現でふさわしいのではないかと。

資料1の13ページ、将来ネットワークの図について、例えば、都市中心線（赤）や拠点連絡線（オレンジ色）等、それぞれに専用路線を設定するように読めるのだが、あくまで機能別に地図に落とし込んだイメージ図であって、具体的には次年度以降の検討事項になるという認識でよいか。

○事務局

基本理念については、使う場面によっても違ってくると感じているが、委員の皆様から御意見をいただきながらブラッシュアップしていく。

将来ネットワーク図については、場所によっては機能が重なるところも出てくるはずであり、完璧な役割分担は難しいところがあると思うが、機能や役割を分けることもイメージしながら考えていきたい。

○谷本委員

将来ネットワーク図に、「実際の運行形態を示すものではありません」といった表記があるとよいのではないかと。

○吉岡委員

資料が大変分かりやすい。分かりやすいがゆえに感じたことを確認したい。資料の「住民意識の改善」という表現について、「住民の意識が悪い（低い）」と捉えられかねない印象を受けた。この計画は、住民の方々も参画して作られているものであることから、行政と住民が一緒になって作りあげようということで進めていくものであるため、この表現について疑問を感じた。また、今後具体的な施策を検討すると思うが、資料1の10・11ページ、基本方針・目標は具体度と抽象度のバランスが悪いように感じる。

○事務局

3市町で議論を重ね作り上げたものである。住民側に何か欠けているわけではなく、調査を進めていく中で、公共交通に興味を持たれていない住民が一定数いることが分かった。そこに対して、モビリティマネジメント的な考え方で住民の意識を向上していくこと、将来を見越して公共交通を常日頃から意識することが大事なことだと捉えて表現した。

今後、公共交通を維持していく中では、公共交通を利用していただくほかに、例えば税金を投入していくというような場面も想定され、公共交通を利用しない人にも負担していただくということもあるので、広く理解してもらいたいと思っている。

表現のところで誤解を招かないよう、まずは事務局内でも知恵を出しながら、うまく伝える表現を検討していく。

○吉岡委員

「住民意識」を問題点として挙げられているようにも見えるので、表現を丁寧に改善してほしい。

○中村会長

利用者の観点から見ていかに利用していただけるかというところでの御意見だと思うので、事務局で再検討させていただく。

○今委員

資料1の12ページ、将来ネットワーク図について、様々な交通手段を最適化することによって効率化を図っていくものだと思うが、現状と比較して「新しいネットワークができるもの」なのか、それとも「現状を維持するもの」というイメージなのか。

○事務局

将来ネットワークのイメージの表現については議論を重ねたところである。基本的には現状を維持する形にしつつ、駅（青山駅）への接続を少し増やすなどの工夫はしている。このイメージ図をベースに来年度議論を進めるが、検討状況を踏まえてこの図が更新されることもある。

○今委員

現状のネットワークと将来のイメージの比較があれば分かりやすいと感じた。

○事務局

指摘いただいた御意見も踏まえて、工夫しながら将来ネットワークのイメージを作っていきたい。

○宮澤委員

計画の基本理念等について、よく整理されていると思う。資料1の8ページ、公共交通サービスにおける課題のところ、公共交通におけるタクシーのあり方は、これまでのイメージで捉えると「鉄道やバスがなくなった分の補完」「高価なイメージ」があり、課題として改めて公共交通としてどう捉えるのか、全国的にも議論されているところである。乗合タクシーだけを公共交通とするのではなく、一般のタクシーの「ドアツードア」の利便性も公共交通として位置付けることを検討してほしい。ただし、どうしても運賃の課題が出てくるので、みんなが使いやすい方へもっていけるよう検討を進めてほしい。「バスが減便して通院できない」等生活に必要不可欠な利用と、「遊びや買い物のため」の利用において、タクシーの運賃が同じと言うのも使い勝手に関わる部分であり、改善できる点だと思う。

地域内交通の中で、どこの結節点までタクシーを利用するのかというのも課題であると思う。各地の例で、乗り継ぎを設定すると乗り継ぎが面倒で使われないということもあるようだ。一方で、乗り換えなしで中心部までタクシーを利用すると、路線バスと顧客の取り合いにもなる。以上の課題も踏まえ、今後、地域内交通の議論を進めてほしい。

○事務局

いただいた御意見は、今後の議論において大事なことだと思う。多様なニーズに柔軟に対応できるというタクシーを活用することによる利点がある一方で、路線バスと比べたときに運賃が高いなど御指摘の通りだと思う。どこかの段階からは、福祉の視点も踏まえてタクシー活用の議論が必要になることも考えられる。

ネットワークの再編という流れの中で、需要に応じたモードを考えていくときに、「タクシー」のあり方については、個別に使われる場合やデマンドのような形で使われるケースなどあるかと思うが、需要、目的によって変わる部分かと思うので、御意見をいただきながら

ら議論を進めていく。

○鈴木委員

基本方針について、大変よくまとまっている。

基本理念について、資料1の9ページの図に関係者間のつながりが表現されているが、赤、青、緑の3つの円が十分につながることが大事であるので、そこを分かりやすく表現してほしい。関係者間は何も考えずに議論を進めていると利害の対立に陥ってしまうことがあるが、時間はかかるかもしれないが意見交換を重ねていくことで、信頼関係が構築され議論がスムーズになっていくと思うので、「信頼関係をつくっていく」という意思表示があればよいと思った。そういった観点から、基本理念は「つながる」より「つなげる」という表現がよいと思う。

いろいろなところに「効率化」や「効率的」という言葉が出てくるが、受け手によって受け取り方が様々あるので注意してほしい。切り捨てられてしまう印象を受ける人もいるはずである。

今後は評価指標等について議論が進んでいくと思うが、「公的資金の投入額」は各地の計画策定において議論になっている。「金額」の視点だけで議論するのではなく、効果的な資金投入について十分に議論してほしい。

タクシーを公共交通としていかに位置付けるか、一般乗用のタクシーをいかに活用するかがポイントになるはずである。

○大坪委員（代理）

資料1の4ページで、乙部地域から矢巾地域への移動の状況が示されている一方、13ページの将来ネットワーク図では表現されていない。

2ページの問題点に「人口減少に伴い」とあるが、「人口減少」に対する公共交通ネットワークの根本的な考え方として、「人口減少にどう合わせていくのか」もしくは「人口減少に歯止めをかけるのか」のどちらなのかについて明確にしてほしい。公共交通の利便性は、「人口流出の防止」や「少子化対策」にもつながると考えているので、根本的な考え方でネットワークの考え方が変わってくると思う。マイナス発想にならないような計画にしてほしい。

○事務局

将来ネットワーク図については、御指摘の通り今後の検討状況に合わせて修正・更新していくものである。

人口減少については、どちらの視点も大切だと捉えている。今後、人口減少自体は避けられないので、その中で公共交通を維持できる仕組みを考えていくことが都市施策の面からも交通施策の面からも必要な見方と考える。一方で、交通サービスがきちんと提供されるこ

とによってその地域が選ばれて人が減らないということもあると思うので、両方大事にし
ながら進めていきたい。

○山城委員

資料1の5ページで路線バスダイヤの調査情報がある。どう施策に生かすかは今後の議
論だと思うが、例えば、仙台駅から八木山動物園間を2社が重複して運行している中で、仙
台市で利便増進実施計画が認定され、仙台市が間を取り持ちながらダイヤ調整を進めてい
る。効率化に向けたよい事例になるはずである。

「効率化」について指摘があったが、「利便性の向上」だけでなく、バス事業者にとつ
てもメリットがあることが大事だと思っている。

6ページは、施策展開として公共交通サービスの認知の部分も大変重要だと思う。例えば、
利便増進実施計画を具体的なアクションプランとして作ったときに、国としても利便増進
事業に対して財政的な支援が可能となっているので利用してもらいたい。

7ページに乗り継ぎが大変だという声があるが、乗り継ぎに関する情報の発信も重要だ
が、乗り継ぎが円滑にできるハード整備も大事だと思うので、ハード面でも検討してほしい。

タクシーについては、公共交通の一部として議論していくことが大変重要なことだと考
えている。住民共助型の地域交通や地域単位でタクシーの貸し切りが行えるような施策も
ある。地域に提供されている輸送資源を、タクシーも含めて最大限に活用していくことが重
要だと思う。

○中村会長

これまで出された意見を参考にして、引き続き検討していく。

(2) 令和6年度盛岡都市圏地域公共交通会議事業計画(案)及び収支予算(案)について

〔事務局説明〕

資料2及び資料3について説明。

●議題2は案のとおり承認された。

(3) 令和6年度盛岡都市圏地域公共交通計画策定業務委託について

〔事務局説明〕

資料4について報告。

5 その他

6 閉会